

特集

今さら聞けない 産婦人科診療のコツと トラブル対処法

企画者のことば

横山良仁*

周産期学，生殖内分泌学，婦人科腫瘍学，女性医学は産科婦人科学の4本柱です。産婦人科専門医を目指す若い医師はこれら4分野を満遍なく経験し，知識を蓄えていかなければなりません。産婦人科専門医を取得すると，今度はそれら4分野のどれかを目標としてサブスペシャリティーとしての専門性を高めていくことになります。

生涯学習として産婦人科医は常に4分野の知識をアップデートしていかなければなりません。しかし，専門性を追求するあまり気がつけば日進月歩する他の分野の最新知識から遅れ，やがては知識の吸収に億劫さを感じるかもしれません。一般診療をしながら，あれ？ と思い，専門書やガイドラインに答えを求めることは珍しくありません。しかし，知りたいことが往々にして基礎的なものであるため専門書やガイドラインには記載されていないことが多く，先輩，同僚，あるいは後輩にまでアドバイスを答えを求めた経験があるのではないのでしょうか。そして産婦人科医として経験年数が経てば経つほ

ど，聞くに聞けないもどかしさを感じた経験もあるのではないのでしょうか。

本企画では，自分の専門分野であれば当然と思われることでも他の専門分野の医師から見ると記憶が希薄になっているかもしれない，という診療内容を取り上げてみました。日常行われる妊娠中の胎児超音波や投薬の基本，GDMとHDP妊婦の産後の注意点，急速遂婉のコツ，妊娠中の手術，増加する外科的閉経女性へのHRTの実際，HRT禁忌女性への対処法，思春期女性やアスリートの月経異常にどう対応するか，妊娠を目指した内膜症治療，不育症治療，基礎体温の重要性，どれも一度はあれ？ と思ったことのあるテーマだと思います。これから産婦人科専門医を取ろうとする若い医師から経験豊富な産婦人科医師まで，いま一度原点を見つめ直すことができる特集であると自負しています。その分野のエキスパートが診療のコツとトラブル対処法を丁寧に教えてくれています。最初から最後まで読んでいただければとご自分の意外な盲点に気がつくかもしれません。

*Y. Yokoyama 弘前大学大学院医学研究科産科婦人科学講座(教授)